

第47回

# ごはん・お米とわたし

作文・図画コンクール入賞作品集



図画1部  
山形県知事賞

「学校のおいしいごはんとかレー」

山形大学附属小学校3年  
おしの さき  
押野 咲紀 さん



図画3部  
山形県知事賞

「朝のひとくち おいしい毎日」

山形市立第五中学校2年  
かわい みおん  
川合 海音 さん



令和5年2月

山形県農業協同組合中央会・山形県農協農政対策本部



◆ごあいさつ

山形県農業協同組合中央会代表理事会長 折原 敬一 ..... 1

◆第47回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール入賞一覧 ..... 2

◆図画部門

図画1部／全国優秀賞・山形県知事賞  
山形県農業協同組合中央会会長賞 ..... 3

図画2部／山形県知事賞  
山形県農業協同組合中央会会長賞 ..... 4

図画3部／全国優秀賞・山形県知事賞  
山形県農業協同組合中央会会長賞 ..... 5

◆作文部門

農林水産大臣賞 ..... 6

作文1部／全国優秀賞・山形県知事賞 ..... 7  
山形県農業協同組合中央会会長賞 ..... 8

作文2部／山形県知事賞 ..... 9  
山形県農業協同組合中央会会長賞 ..... 10

作文3部／全国優秀賞・山形県知事賞 ..... 12  
山形県農業協同組合中央会会長賞 ..... 14

◆審査講評

作文部門審査講評 山形市立第十小学校校長 樋口 潤一 ..... 16

図画部門審査講評 大江町立左沢小学校校長 建部 敦 ..... 17

◆第35回～第47回 入賞一覧 ..... 18

◆審査経過の概要 ..... 20

◆募集要領 ..... 21



## ごあいさつ

## 山形県農業協同組合中央会

代表理事会長 折原 敬一

第47回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに応募いただいた児童・生徒の皆さん、とても素晴らしい作品をありがとうございました。心からお礼申し上げます。

また、入賞された皆さん、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

私たちJAグループは、次代を担う小・中学生の皆さんに、古くから日本の食卓と国土を育んできた稲作農業、ごはん食と健康の結びつきを見直してもらうため、昭和51年度からこのコンクールを実施しており、今年度で47回目を迎えます。

今回は、県内の小・中学校から作文二四四点、図画八三三点もの力作を応募いただき、全国コンクールに推薦するとともに、県コンクールにおいては、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞、優秀賞、学校奨励賞を選考いたしました。

全国コンクールにおいては、作文部門二部で農林水産大臣賞、同部門一部と三部で優秀賞、図画部門一部と三部で優秀賞を受賞する成績を収めました。これは入賞された皆さんのご努力はもちろんのこと、ご指導いただきました学校の先生方をはじめ、ご父兄の皆様、審査委員の先生方、そして山形県ならびに各JAのご支援・ご理解の賜物と心から感謝申し上げます。

今回応募いただいた作品は、田植えや収穫作業、ごはんをおいしそうに頬張る様子などをいきいきと表現したものや、ごはんを通じて家族との温かいつながり、お米やふるさとの素晴らしい価値などを豊かに表現したものなど、心に響く作品ばかりでした。ごはん食や農業の果たす役割の大きさ、ありがたさが素直に表現されており、日本人の生活とお米は、深く結びついていると改めて実感させられました。

どうか皆さん、普段何気なくごはんを食べることができると幸せを忘れないでください。また、お米をはじめとした農畜産物を作る農家の苦労や

努力を感じ、感謝の気持ちを大切にしてください。そして、自然や生き物すべての命を大切にすることを、いつまでも持ち続けてください。

現在、日本は、世界中の国々と貿易を行い、食料の多くを外国から輸入しています。皆さんは、わたしたちが毎日食べている食べ物が、どこで作られたものなのか知っていますか。食べ物全体のうち、どのくらい日本国内でつくっているかを示す食料自給率は38%であり、先進国の中では最低の水準にあります。世界的には、人口の増加により食料が足りなくなることが心配されており、それぞれの国が食料自給率を向上させることが大事なことで考えています。

私たちJAグループは、地元産をはじめとした国産農畜産物の消費拡大や皆さんの安全な食生活の確保に向けて、日本人の主食である「ごはん」を中心とした日本型食生活の推進、学校給食における安全・安心な農畜産物の提供、「食」と「農」の大切さを伝える食農教育の推進、国民が必要とし消費する食料は、できるだけ国内で生産する「国産国産」の国民的理解促進に向けた取り組みに「層努力してまいります。そして、農業者や地域の皆様にとつて「なくてはならないJA」となるよう、引き続き様々な取り組みを進めてまいりますので、これからもご理解・ご協力をお願いいたします。

さて、本県産「つや姫」は、平成22年のデビュー以来、多くの方々からご好評をいただき、皆さんにとつても馴染みのお米となったことと思います。また、平成30年秋に本格デビューした「雪若丸」も、「つや姫」に負けず劣らずご好評いただいております。本県では、「つや姫」や「雪若丸」のほかにも、「はえぬき」などのおいしいお米をたくさんつくっています。私たちは、これからも安全・安心でおいしいお米を皆さんにお届けしてまいりますので、応援をよろしく願います。

最後に、当コンクールをますます発展させていただきますよう皆様からのご協力をお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

# 第47回「ごはん・お米とわたし」

## 作文・図画コンクール入賞一覧

(敬称略)

### 全国審査における入賞者

#### ○農林水産大臣賞

(作文 2 部) 田村 理音 米沢市立北部小学校 5年

#### ○優秀賞

(作文 1 部) 松田 彩未 庄内町立余目第一小学校 2年 (図画 1 部) 押野 咲紀 山形大学附属小学校 3年

(作文 3 部) 藤村 愛依 米沢市立第四中学校 3年 (図画 3 部) 川合 海音 山形市立第五中学校 2年

#### ○学校奨励賞

米沢市立北部小学校

### 山形県審査における入賞者

#### 作文部門

##### ●1部 (小1~3年)

山形県知事賞 松田 彩未 庄内町立余目第一小学校 2年  
山形県農協中央会会長賞 梁瀬 聖希 大蔵村立大蔵小学校 1年  
優 秀 賞 佐藤 茉優 真室川町立真室川北部小学校 1年  
烏 円花 山形市立出羽小学校 2年  
矢作 莉夢 大蔵村立大蔵小学校 2年  
桑原 鶴斗 鶴岡市立朝陽第二小学校 2年  
千歳友太郎 山形大学附属小学校 3年

##### ●2部 (小4~6年)

山形県知事賞 熊谷 大輔 東根市立神町小学校 6年  
山形県農協中央会会長賞 中寫 尊帆 最上町立大堀小学校 5年  
優 秀 賞 佐藤 優真 真室川町立真室川小学校 4年  
五十嵐蒼二郎 鶴岡市立京田小学校 4年  
茂木 耀義 米沢市立南原小学校 6年  
加藤 愛 南陽市立沖郷小学校 6年  
鈴木昭太郎 高島町立和田小学校 6年

##### ●3部 (中1~3年)

山形県知事賞 藤村 愛依 米沢市立第四中学校 3年  
山形県農協中央会会長賞 小笠原晃穂 鶴岡市立豊浦中学校 3年  
優 秀 賞 鈴木寧々花 米沢市立第一中学校 1年  
菊地 咲良 白鷹町立白鷹中学校 1年  
加藤寿々風 米沢市立第一中学校 2年  
竹田 春輝 高島町立高島中学校 2年  
手塚 遥斗 高島町立高島中学校 2年

#### ●学校奨励賞

米沢市立北部小学校  
米沢市立第四中学校

#### 図画部門

##### ●1部 (小1~3年)

山形県知事賞 押野 咲紀 山形大学附属小学校 3年  
山形県農協中央会会長賞 瀧澤 永吉 高島町立屋代小学校 2年  
優 秀 賞 栗田 泰成 真室川町立真室川北部小学校 1年  
鈴木 楓麻 南陽市立中川小学校 1年  
早坂 優希 大石田町立大石田北小学校 2年  
加藤 凜空 村山市立楯岡小学校 3年  
矢作 蒼梧 大石田町立大石田小学校 3年

##### ●2部 (小4~6年)

山形県知事賞 山澤 幸生 山形市立第四小学校 5年  
山形県農協中央会会長賞 添川 夢叶 高島町立和田小学校 4年  
優 秀 賞 伊藤 学玖 大蔵村立大蔵小学校 5年  
松田 蒼士 白鷹町立荒砥小学校 5年  
柴田 鉄汰 尾花沢市立官沢小学校 6年  
遠藤 嘉乃 尾花沢市立玉野小学校 6年  
加藤 璃子 舟形町立舟形小学校 6年

##### ●3部 (中1~3年)

山形県知事賞 川合 海音 山形市立第五中学校 2年  
山形県農協中央会会長賞 浅野 来茉 米沢市立第二中学校 1年  
優 秀 賞 木村 佳恵 山形市立第四中学校 1年  
横山 瑠香 米沢市立第二中学校 1年  
猪口 陽向 米沢市立第六中学校 2年  
佐藤 七渚 鶴岡市立櫛引中学校 2年  
安野 雅彩 鶴岡市立櫛引中学校 2年

#### ●学校奨励賞

山形大学附属小学校  
米沢市立第二中学校



●全国優秀賞・山形県知事賞●

「学校のおいしいごはんとかレー」

山形大学附属小学校三年

押野<sup>おしの</sup> 咲紀<sup>さき</sup>

●山形県農業協同組合中央会会長賞●

「ぼくとおとうさん」

高畠町立屋代小学校二年

瀧澤<sup>たきざわ</sup> 永吉<sup>えいきち</sup>







山形市立第五中学校二年

川合<sup>かわい</sup>海音<sup>みおん</sup>

●全国優秀賞・山形県知事賞●

「朝のひとくち おいしい毎日」



米沢市立第二中学校一年

浅野<sup>あさの</sup>来茉<sup>くるみ</sup>

●山形県農業協同組合中央会会長賞●

「何を食べようかな」

## 作文 2部

農林水産大臣賞

### ごはん二つぶの重み

米沢市立北部小学校五年

田村 理音

「また、ごはんつぶ残してる。」  
私がおはんを食べ終わってごはん茶わんを運ぼうとすると、よく父に言われます。

「残してないよ。」  
「ここにあるでしょ。」  
そう言われて仕方なく私は食べます。確かに二つぶか二つぶ残っているのです。私は全部食べているつもりなのに、なぜかお茶わんの見えないところについているのです。残してないのになぜいつも注意されるんだろう。私の中で疑問が残ります。

私は今年五年生なので、自然の家で宿泊体験学習がありました。ずっと楽しみにしていたのが、友達と泊まることと野外すいはんでカレーとごはんを作ることでした。でも、新型コロナウイルスが感染拡大したために、お米は自分達でたけなくなり、カレーはレトルトカレーをお湯で温めるだけになってしまいました。学校の家庭科の授業でも調理できず、みんなと調理する機会がなかったのでもう一度やってみたかったです。だからできなくなって残念でした。あまりにがっかりしていたので、父が

家でお米をたけないかと調べてくれました。空き缶を使つてたく方法で、かまども空き缶で作ってくれました。まず、お米をとぎました。初めてだったので、父に教えてもらいながらとぎました。ボールに入れたお米を外に二つぶも落とさないように慎重にとぎました。それなのに落としてしまいました。大切なお米なのにもつたいないと思いました。次に空き缶で作ったかまどで火をおこします。空き缶にお米を入れてかまどにのせます。火が点いてからがすごく大変でした。燃料になる牛乳パックを次々と入れて、うちわで火を大きくしていきます。暑い中、休むひまもないのです。途中で火が消えてしまつて何回もやり直しました。上にのせたアルミホイルがふくらむとごはんがたきあがった合図です。まだかまだかとわくわくして待つていました。汗だくで食べたごはんは、何も具が入ってなくて、味も付いていないのに、すごくすごくおいしかったです。ごはんつて、本当はほんのりあまいんだと分かりました。二つぶも残さず食べられました。

「今日は、きれいに食べられたね。」  
父に言われて、ふと思ひ出しました。ごはんは二十五つぶで二グラムだということを。米沢市の食べ残しを減らす取り組みのために調べました。ごはん二つぶでは軽いけれど、本当は重い二つぶです。私達と同じように、農家の方が種もみから育ててくれた大事な命です。私が時々残している二つぶも本当は重い大切な二つぶだったと、自分でたいたごはんを食べて気づきました。私は食べたつもりになつていたけれど、よく見ていなかったのです。だから、残してしまつていたのです。これからは、お米の大切な命を無だにしないように、二つぶも残さず食べたいです。



## ●全国優秀賞・山形県知事賞●

### おじいちゃんのおこめ作り

庄内町立余目第一小学校二年

松田<sup>まつた</sup> 彩未<sup>あみ</sup>

今、わたしのすんでいるしょう内町は、みどりのきれいなじゅうたんがひろがっています。

わたしのおじいちゃんは、おこめを作っています。まだ五月に田うえをしますが、田うえのじゅんびは、まださむい四月にたねまきからはじまります。たねまきは、小さなおこめの赤ちゃんのたねを、土や水といつしよになえばこに入れます。わたしは、きかいの中になえばこを入れる手つだいをしました。はこ入れがすこしでもおけると、水もたねも土も下におちてしまいます。間をあけないではこを入れることは、とてもむずかしかったです。土のふとんにかくれたおこめの赤ちゃんが入ったはこを、ビニールハウスにきれいにならべていきます。わたしは、一年生のころは、お

もくてはこを一人でもつことができませんでした。今年は、一人でもてるようになったので、おじいちゃんもおばあちゃんもみんなびつくりしていました。

田うえのころになると、きれいにならんでいるおこめの赤ちゃんは、わたしの手くらの大きさまでみどりのなえにせい長します。きれいなみどり色のなえを、おじいちゃんが田うえきでいてねいに田んぼにうえていきます。田うえきにのっているおじいちゃんの顔は、みたことがないくらいしんけん、とてもかっこいいです。

しょう内町は、あと二か月すると田んぼが金色になります。いねかりがはじまるころ、おじいちゃんの顔は、またしんけんな顔になります。わたしは、いねかりのにおいが大すきです。大きなコンバインのついでいねかりをするおじいちゃんは、日やけでまつくろな顔をしています。

おじいちゃんが作ったおこめは、白くて、とてもキラキラしています。わたしは、おじいちゃんのおこめが大すきです。

## ●山形県農業協同組合中央会会長賞●

### ぼくとおこめ

大蔵村立大蔵小学校一年

梁瀬 やなせ 聖希 しょうき

ぼくは、おこめがだいすきです。まいにちおいしいおこめをたべることができません。それは、ぼくのおじいちゃんが、おいしいおこめをつくってくれるからです。

ぼくは、あかちゃんのところからおじいちゃんとたんぼにいつています。はるはたうえ、あきはいねかりをぼくもてつだいます。おじいちゃんといっしょにたうえきやくんばいんにのつてうんでんするおじいちゃんをおうえんしました。

でも、おこめをつくるしごとはそれだけじゃありません。ドローンでひりょうをまくのをみました。たのしそうで、ぼくもやつてみたいなおもいました。いねかりをしてから、いねのわらをたばねて、ぼうにかけてかわかします。それは、なまはげみたいでおもし

ろいです。ほかにもみずのかんりなど、ぼくがしらなところでおじいちゃんが、たくさんはたらいっているから、おいしいおこめができます。

一ねんせいになつてから、ぼくはじぶんでおにぎりにぎるようになりました。おばあちゃんからにぎるかたをおしえてもらいました。ごはんがたきあがつたにおいはとてもいいにおいです。あつあつのごはんにおをつけてにぎるおにぎりはさいこうです。なかのぐは、おばあちゃんがシークレットでいれてくれます。たべるときは、なにがはいつているんだらうな、とわくわくします。たらことすじごはいつていたらあたりです。ぼくがにぎるおにぎりは、まんまるになつちやいます。ひいおばあちゃんから、

「まんまるこすぎねが。」

といわれました。たしかにたべづらなければおいしいおにぎりです。

もうすぐいねかりのきせつになります。おじいちゃんの新まいをたべられるのがたのしみです。

## ●山形県知事賞●

### 協力して作るおいしいお米

東根市立神町小学校六年

熊谷 くまがい 大輔 だいすけ

たきたてのごはんは鮭をのせて、ふりかけをかけて、何にでもあう日本の「お米。」ぼくはお米を食べるのが大好きです。ぼくは今日も、おいしいお米をたくさん食べています。

わが家では祖父母を中心に米作りをしています。田植えや稲刈りなどは人手が必要なので家族全員が参加して行います。春と秋のすずしい季節の作業ですが、長そでのつなぎで動きまわるので、汗かきのぼくには少し苦痛です。そんな大変な作業をこれまでずっと行ってきた祖父母には感謝感謝の気持ちです。

色々大変な米作りですが、祖父の行動には感動しました。今年の夏休みに、ぼくは祖父と一緒に田んぼに行きました。今年の稲も穂が出ようとしていて「順

調」と祖父も言っていました。祖父は車から降りて水を止めに行きました。穂が出る時の田んぼの水の管理は一年のうちでも一番気をつかう作業なのだそうです。豊かな実りの秋を迎えるため、こまめに田んぼへ行き状態を確認しながら水の管理をするのは職人技だと思いました。家の田は全部で約九千平方メートル。形が複雑ですが、サッカーコートよりひとまわり大きいぐらいです。祖父が車から降りて三分ほどすると、田んぼに大つぶの雨が降ってきました。土砂降りです。しかし祖父は作業をやめません。雨が強くなってきたころ、ずぶぬれで祖父は車へ帰ってきました。自分はずぶぬれになろうともお米の世話をやりぬく姿に感動しました。

こうして愛情たつぷりに育てられたお米は、秋になると豊かに実ります。毎年、黄金色にそまった田んぼを見ると春からの祖父母の努力が伝わってきます。小さいころはイナゴをつかまえることが専門でしたが、最近はおくもかまを持って稲刈りを手伝います。ぼくの片手ではにぎれないほどに株が成長した稲を、こ

しを曲げてザクッと刈り取るのは大変なことです。でも収穫に加わったことで、その年の新米をほおぼる瞬間は、ごはんのおいしさをいつも以上に感じることが出来ます。

家の祖父母もふくむ山形の米農家さん達は、晴れの日も、雨の日も、風の日も、おいしいお米を作るために大変な作業を休まず行っています。ぼくが毎日食べているごはんも祖父母が一生懸命育てた愛情たっぷりの山形米です。お米を食べる人の笑顔のために汗を流して働く米農家さん達に感謝の気持ちでいっぱいです。そしてぼくも米作り農家の一員として田植えや稲刈りなど、祖父母に負けないようにがんばって働きたいです。五十年後も百年後もおいしい山形米が食べられるように、大切に家の田んぼを守っていききたいと思いました。

つや姫、雪若丸、はえぬき、コシヒカリ。山形の米農家の努力の勲章。おいしいお米、「いただきます!!」

## ●山形県農業協同組合中央会会長賞●

### つや姫の努力

最上町立大堀小学校五年

なかじま  
中 嶌  
たかほ  
尊 帆

「あのかんばんなんだろう。」

ぼくは、車のまどごしからあるかんばんが目にとまった。何回も見ているはずなのに初めて気づいた。それはぼくの家で育てているつや姫の田んぼだった。ぼくは気になっておじいちゃんに聞くことにした。

「つや姫を作ったら、出さないといけないかんばんなんだよ。」

とおじいちゃんが教えてくれた。そこでぼくは他にもなにかあるんじゃないか調べることにした。すると、つや姫を作るにはきちんとしんせいしなければいけないことが分かった。そして、生産者は基本要件をすべてクリアしないといけないことも分かった。その他にも、面積要件、さいばい要件、販売要件とたくさん必要

件ときまりがあった。ぼくはつや姫を作るのは大変なんだと気づいた。それでもよくわからなかった。なぜこんな要件があるのだろう。そこでおじいちゃんにまたくわしく聞いてみた。おじいちゃんは、「植えたらかんばんを必ず出さないといけない。つや姫は肥料がきまっている。」

そこで、自分でつや姫についてくわしく調べてみることにした。パソコンにはつや姫のおいしい理由が4つ出てきた。①認定された生産者がさいばい適地で生産。②有機さいばい米と特別さいばい米にげん定。③高いさいばい技術による生産。④食味をチェックして出荷。と、とてもきびしいきまりがあることでおいしいお米になることが分かった。

ぼくは、毎日つや姫を食べている。

「おいしいなあ。」といつも思っていたが、おじいちゃんはきまりを守りながらおいしいつや姫を作るのをがんばってくれていたんだと分かった。

おじいちゃんは、病気で田んぼができない時期があつ

た。でも、今年は体調がよくなって田んぼの仕事をがんばっている。ぼくは手つだいをしようと思っていたが、今年は、稲に薬をあげる仕事しか手つだえていない。これからの時期、稲かりがまっている。コンバインには乗れないけど、自分ができることをおじいちゃんに聞いて、手つだっていきたいと思う。

最近、米づくり農家がへっていると社会科の授業で学習した。やはり手間がかかったり天候に左右されたりするからだと思う。こんなにすばらしい米とそのさいばい方法をぜひ、たくさんの人に守ってほしい。そしてぼくは、山形を代表する米をせっかくおじいちゃんがしんせいしているの、これからも手つだって一年でも長くつや姫を作り続けられるようにしていきたいです。



●全国優秀賞・山形県知事賞●

気づいた、ごはんの力に

米沢市立第四中学校三年

藤村 ふじむら 愛依 あいい

ごはんはいつも日常の中にいる。お茶碗に入れられて、食卓に溶け込むようにそこにいる。主役になることもあるが、目立たないことも多い。ごはんは派手さはない。でも、私達の日常を静かに、そして確かに支えてくれている。ごはんは名脇役なのだ。

二年前の夏休み、私達家族はある挑戦をした。コロナ禍で満足に遊びにも行けない夏休み、少しでも楽しく過ごそうとして父が考えたものだった。「毎日どんぶり作戦」。夏休み中、昼食を全てどんぶりにしようという作戦だ。この作戦には二つ大切なルールがあった。それは、どんぶりの具を毎日必ず変えて、一度作った具はもう作らないこと。毎日違う種類のどんぶりを作りおいしく食べることができると、という挑

戦だ。それほどすぐくもないし派手でもないが、簡単でもない挑戦だった。この挑戦の中で、私はごはんの名脇役ぶりの一端を垣間見ることができた。

「毎日どんぶり作戦」で食べるどんぶり。主役はごはんと具、どちらか。やっぱり具だろう。ごはんの上に乗っている具を、ごはんと共においしく食べる。それがどんぶりだ。「毎日どんぶり作戦」では、具を毎日変えて楽しむ。でも忘れてはいけない。どんぶりの具が日々変わる中で、ごはんだけは変わらない。ごはんだけは、毎日同じ顔で具を受け止めてくれる。ごはんがちゃんとあることで、どんぶりはおいしくなる。そう思うに至った出来事が一つある。

ある日私は豚キムチ丼を作った。作るのは難しくなかったが、私は二つ、大きな失敗をしてしまった。豚キムチを多く作りすぎてしまったのだ。器のごはんの上に盛ったが、どう見てもごはんより量が多く、つり合っていない。仕方がないと思って食べてみれば、豚キムチはおいしいが、味がこい。ごはんと一緒に食べても、豚キムチの割合が多いのでまだ少し塩辛い。結局、そ

の日のどんぶりはおいしくも塩辛く、「丼」ではない  
ごはん入り豚キムチになってしまった。私は実感した。  
やはりどんぶりは、ごはんの量の方が多くなくてはな  
らないのだ。ごはんが具を包むように口に入ること  
で、具はおいしく食べやすくなる。どんぶりの中で、ご  
はんは大きな役割を果たしていることを知った。具の量  
で失敗したのはその日だけだった。他の日は、おいし  
く完璧な形でどんぶりを食べることができた。そして  
私は思ったのだ。やっぱりごはんは、名脇役だと。

もう一つ、気付いたことがある。どんぶりを三週間  
近く飽きずに食べ続けられたことには、ごはんが関係  
しているのではないか。同じ主食でも、うどんと比べ  
てみると、小さな違いが分かる。

私はうどんも好きだ。本当においしいと思う。  
しかし、毎日、お昼はうどんがいいと言われると悩  
む。飽きてしまいそうだからだ。なぜだろう。それ  
はきつとうどんが主役一本だからだと思う。うどんに  
どんな具がのつていたとしても、その料理はやはり「う  
どん」だ。具が変わっても、主役は変わらない。反

対にごはんに具がのつているとどうだろう。具が変わ  
れば主役も変わる。具が主役だからだ。同じ主食で  
も、うどんとごはんの役割には少し違いがあるのだと  
思う。脇役にもなれるごはんだからこそ、毎日食べて  
いても飽きない。ごはんはここでも、どんぶりの中で  
大きな役割を果たしていた。

「どんぶり」の主役は具だ。でもすごいのは、それ  
を支えてくれる「ごはん」だ。具を引き立たせ、か  
つ飽きなくしてくれる。どんぶりだけではなく、いろ  
いろなところでごはんは静かに活躍している。食卓に  
あまりに溶け込みすぎて、気付かないごはんの力を  
再確認することができた。ごはんには、これからもずつ  
と私の日常のそばにいてほしいと心から思う。



## ●山形県農業協同組合中央会会長賞●

### 私の家は米農家

鶴岡市立豊浦中学校三年

小笠原晃穂 おがさわらみつほ

四歳の冬から始めたスキー。家から十分で行ける八森山が私のスキーのホームグラウンド。冬の晴れた日、その八森から雪をいっぱい抱っこした私の家の田んぼが見える。冬の太陽にキラキラと輝くその田んぼの姿が見える日は雪の精からのご褒美だ。

私の家は米農家。そんな父の口癖は「米農家の仕事はいっぱいあるが、美味しい米を作るためにはどれ一つとして手が抜けない。」だ。かつこよすぎる。しかし、実際の父は、農作業がきつかった日の晩酌後は、家の廊下で寝てしまうという実にかっこ悪い父なのだ。そんな父だが、やるときはやる頼もしい一面もあることを父の名誉のために言っておこう。

そんな米農家のわが家では春になると、一大イベン

ト田植えの日を迎える。ほとんど父と母がやっているのだが、私たち子ども四人も田んぼに行つて「手伝っているのかわからない。」と言われながらも、一日中一緒に仕事をする。それが我が家の春の年中行事となっている。水が引かれた田んぼには空と八森の山が映り、田んぼというよりは大きな水鏡。その田んぼが緑の絨毯に変われば田植えは終了。その頃には日永の春でもさすがに日は傾き、一日の疲れがどっと押し寄せてくるが、父も母も姉も私も弟も妹もやりきった成就感でみんな笑顔になれる。私の家族は仲良し家族なのだ。このイベントを境に、わが家では毎日が超スーパーウルトラ忙しいジェットコースターデイが始まる。そんな忙しい日々を父も母も楽しんでやっているんだと感じられる。それは、夕食の話題が田んぼの話ばかりで、二人の顔が笑顔いっぱいだからだ。

でも、楽しいことばかりでないことを私は知っている。その二つが、米作りは天候に左右されるといふことだ。そのため、天候に合わせた農作業を毎年行わなければならない。特に三瀬には大きな川がないため、



雪解け水が頼りなのだ。祖父の代までは水の分配がとでも大変だったという。そこで、用水路が整備され水でもめることは少なくなってきた。自然に大きく左右されながらも私たち人間は確実に前進している。それでも暖冬の年は大変なのだ。色々な物が整備され条件が格段によくなってきた。やはり米作りは自然に寄り添いながらの仕事なのだ。

しかし、一番の悩みは日本人のお米離れの問題だと母は言う。どんなに美味しい米を作っても、どんなに丹精込めて作っても食べる人がいないというのが大問題なんだと。給食でもパンの日は人気で、米農家の私はちよびり悔しい。もとお米を食べてもらうにはどうすればいいのだろうか。なかなかいいアイデアは浮かばないが、パンも米粉を使つて作られるようになってくる。どこかでだれかが米問題解決のため戦ってくれていると思つてうれしい。

けれど、私は米農家の子どもとして心配なことがある。それは後継者問題のことだ。家には姉私弟妹四人。しかし、誰も田んぼを継がなかったら……。

私は今中学三年。進路を決める時期が迫っている。誰も家の田んぼを継がなかったら、田んぼをしてみようかとちよつとだけ考え、進学先を考え始めている。でも家だけ後継者問題が解決しても、このことは、今の日本が抱えている大きな問題に変わりはないのだ。農業の機械化が進み、人がやらなくても機械が人の代わりに農業をやってくれる日がもうそこまできているのかもしれない。しかし、それまで日本の農家は持ちこたえられるのだろうか。美味しいお米が食べられない時代がやつてこないことを祈りたい。

今年梅雨が短く、夏が六月にはやつてきた。しかし、八月に入ると雨、雨、雨の日々。天候不順が続いた。父の廊下で眠る日が増えたこの夏。今年もいっぱい美味しい家の米ができたらしいな。



# 作文部門審査講評

山形市立第十小学校校長 樋口 潤一

第四十七回「ごはんお米とわたし」作文コンクールに、県内各地から応募された二百四十四点の作品を読ませていただき、「お米ごはん」は、今でも私たちの生活としつかりと結びつき、心の豊かさを育むことにもつながっていると感じます。家族が農家で、米作りをしている姿を見たり、仕事を手伝ったりする中で、仕事の大変さとともに、心を込めて立派な稲を育て、おいしいお米を作っていくことの喜びと誇りを感じ取っている人がいます。学校の学習で米作りを体験し、毎日食べているお米がどのようにして作られていくのかを学び、おいしいお米が食べられることへの感謝の思いを感じる人もいます。家族とともにごはんを作り、一緒に食卓を囲む中で、家族の愛情と絆の強さをあらためて実感する人もいます。春、夏、秋…と稲が育っていく田んぼの美しい風景に目を見はり、美しい言葉で感動を綴っている人もいます。まさに「お米ごはん」の文化です。

米沢市立北部小の田村さんが農林水産大臣賞を受賞されたことに心からお祝いを申し上げます。そして、ここでは、県審査において、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞を受賞された作品を紹介いたします。

## 一部(小学校二年生から三年生)

○「おじいちゃんのおこめ作り」

(庄内町立立余目第一小学校 二年 松田彩未 山形県知事賞)

おじいちゃんのお米作りを手伝っている彩未さん。「おこめの赤ちゃん」「土のふとん」など、お米作りの経験から得た感覚を生かして、言葉を選ぶことができています。また、田んぼやお米の様子を色やにおいを表す言葉を使って表現しているため、その場面を鮮やかに想像することが出来ます。「去年は重くて運べなかつた苗箱を今年は一人で運べるようになった」と、お手伝いを通して気づいた自分の成長についても触れられており、作品全体から元気や活力が感じられます。

○「ぼくとおこめ」

(大蔵村立大蔵小学校 一年 梁瀬聖希 山形県農業協同組合中央会会長賞)

聖希さんは赤ちゃんのころからおじいちゃんと田んぼに行っているため、田植えや稲刈りだけではなく、ドローンを使つての肥料まきや水の管理など、米作りの様々な仕事を身近に感じていることがわかります。できあがつたお米を使つておにぎりを作つていたときのおばあちゃんやひいおばあちゃんとのやりとりがほほえましく、読み手の心を温かくします。米作りを通して家族の触れ合い。これから先の時代もずっと残つてほしいという気持ちになる作品です。

## 二部(小学校四年生から六年生)

○「協力して作るおいしいお米」

(東根市立神町小学校 六年 熊谷大輔 山形県知事賞)

大輔さんの祖父母を中心に、田植えや稲刈りの時期は家族全員で行っている

米作り。大輔さんは、米作りの仕事を手伝う中で、その大変さとおじいさんの米作りにかける情熱と愛情を深く知り、働く姿を丹念に文章に表しています。そして、「お米を食べる人の笑顔のために汗を流して働く米農家さん達への感謝の気持ち」を実感します。「五十年後も百年後もおいしい山形米が食べられるように、大切に家の田んぼを守っていきたい」という大輔さんの強い意志が表れる言葉に、農業の未来への光を感じます。

○「つや姫の努力」

(最上町立大堀小学校 五年 中寫尊帆 山形県農業協同組合中央会会長賞)

いつも見慣れている自分の家の田んぼに、看板が立っていることに気づき、そのことをきっかけに、「つや姫」を作るためには、たくさんハードルをクリアしなければならぬと知った尊帆さんの驚きが伝わってきます。短い文で、簡潔に表現されていることで、「つや姫」を作る難しさが読み手にも伝わり、その難しい米作りに、二所懸命に取り組んでいるおじいちゃんを「すごいなあ」と思う尊帆さんの熱い気持ちが強く感じられる作品になっています。

## 三部(中学生)

○「気づいた、ごはんの力に」

(米沢市立第四中学校 三年 藤村愛依 山形県知事賞)

コロナ禍の中、少しでも楽しい夏休みにしよう和家人で考え実行した「毎日どんぶり作戦」。夏休みの昼食をすべてどんぶりにしようとするユニークな取り組みの中で、ごはんが「名脇役」であることに気づく様子が、巧みな表現で生き生きと描かれています。どんぶりを毎日作つたという実体験による思いがあるからこそ、読み手にごはんのよさがしっかりと伝わり、説得力のある作品になっています。

○「私の家は米農家」

(鶴岡市立豊浦中学校 三年 小笠原晃穂 山形県農業協同組合中央会会長賞)

冒頭の丁寧な風景描写から、自分の住む地域を大切に思う気持ちが伝わってきます。農作業は楽しいことばかりではないけれど、家族全員で米作りに取り組む様子の端々から、家族の温かい心のつながりも感じられます。父親のユニークな二面を取り上げつつ、懸命に取り組む父親を誇らしく思う小笠原さん。米作りに関わる家族の様子が、飾らない言葉で素直に表現されています。

## 山形県学校奨励賞

今年度の山形県学校奨励賞は、米沢市立北部小学校と米沢市立第四中学校が受賞されました。

大江町立左沢小学校校長 建部 敦

第四十七回「ごはんお米とわたし」図画コンクールには、全国の小・中学校から四万四千四百十一名の作品が寄せられました。県内からは長引くコロナ禍にも関わらず八百二十三名の応募があり、本コンクールに昨年度以上の応募があったことを嬉しく思います。まずは賞の有無にかかわらず、この図画コンクールに出品した小・中学校の皆さんが、お米やごはん食を通して視野を広げ、家族や地域、そして故郷山形を大切にすることに育つことを心から願っております。

作品を見せていただくのと、ご飯をおいしくおぼる様子や家族で食卓を囲む姿、稲を育てている様子や美しい田園風景などを明るい画風で描いている作品が多く、晴れやかな気分審査をさせていただきました。端末活用の効果もあるのでしょうか、頭上から見下ろしたような構図や手元のアップ、大胆な構図の切り取り方など、これまでになかったような画面構成の工夫なども見られるようになってきており、新鮮に感じました。審査をするにあたっては、作者のごはんやお米に対する思いが、作者ならではの視点でよく表現されているかどうかを大事にしたところです。

昨年に引き続き本県の二作品が全国で優秀賞に入賞するという嬉しい結果となりましたが、ここでは、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞を受賞された作品を紹介します。

## 一部（小学校二年生から三年生）

○「学校のおいしいごはんとカレー」

（山形大学附属小学校三年 押野咲紀 山形県知事賞）

日常の給食盛りつけの場面から描く対象を絞り、安定した構図と響き合う色合いによって大変魅力的な作品となりました。特に黒板の緑と白帽や給食着の白の対比などが鮮やかで強く印象に残ります。給食前の授業は算数だったのでしょうか、黒板に残された板書や黒板消しの配置など、背景にも作者のこだわりが感じられます。色の線を重ねた効果や平面的に仕上げた画風の面白さもあり、見ている私も絵の中の人物からカレーライスをいただきたくなるような一枚に仕上がりました。

○「ぼくとおとうさん」

（高島町立屋代小学校二年 瀧澤永吉 山形県農業協同組合中央会会長賞）

お父さんと一緒にコンバインに乗り込み、稲刈り体験をしたのでしよう。きつと春から収穫を迎えるまで、お父さんの傍らで稲が成長する様子を見守ったり、お手伝いをしたりしてきたのではないのでしょうか。

金色に実った稲穂を機械で二気に刈り取っていく体験に、驚いたりワクワクした気持ちになったりしたことが操縦席にいるぼくの表情から伺えます。題名にもなっている「ぼくとおとうさん」の二人で収穫をした秋の一日を、思い出しながら描いた素敵な作品です。

## 二部（小学校四年生から六年生）

○「大好きな昼食」

（山形市立第四小学校五年 山澤幸生 山形県知事賞）

おにぎりを両手でつかみながら、嬉しそうに食べようとする男の子の元気な様子が伝わってきます。おにぎりの米粒やお汁の具材など、細かいところまで配色や着色に気を配って描いており、食べ物に対しての愛情が感じられます。

作品全体が健康的で明るい雰囲気の中に仕上がっており、作者のごはんが大好きという表情と思いがよく表現できています。

○「おいしいお米 大好きなごはん」

（高島町立和田小学校四年 添川夢叶 山形県農業協同組合中央会会長賞）

お米を使いたいいろいろな食べ物を描いたことのできる画面となり、お米を食べることが大好きなことが伝わってきます。それぞれの食べ物に描き、色づかいも本物のように工夫しています。「次は何を描こうかな。」とごはんのことを想像しながら、思いをふくらませて楽しく描いた作品なのでしょう。お米を使った食べ物への感謝など、優しく温かい気持ち画面から感じられ好感が持てます。

## 三部（中学生）

○「朝のひとくち おいしい毎日」

（山形市立第五中学校二年 川合海音 山形県知事賞）

朝、炊飯器で炊けたご飯を茶碗によそう場面を大胆に描きました。炊き立てのごはんを主役にし、釜の中のご飯粒の立体感を薄緑色の陰影を使い、新鮮で清潔に表現しています。また、炊飯器の細部もよく観察し立体的に描いています。人体は手しか描かれていませんが、希望を持って今日一日に向かおうとする作者の前向きな気持ちまで伝わってくるようです。

○「何を食べようかな」

（米沢市立第二中学校二年 浅野来菜 山形県農業協同組合中央会会長賞）

おにぎり、オムライス、お寿司、カレーライスでしょうか、細部まで丁寧に写実的に描いています。おにぎりのごはん粒の色づかいやお寿司のネタの描写などが素晴らしく、特にイクラの立体感とカレーライスの湯気など高い表現技術を駆使して描いています。食べたいごはんを想像している作者の表情も生き生きしており、食を通して力強い健康さのようなまで伝わってきます。

## 山形県学校奨励賞

今年度の山形県学校奨励賞は、山形大学附属小学校と米沢市立第二中学校が受賞されました。

「ごほん・お米とわたし」作文・図画コンクール 第35回〜第47回 入賞一覽

作文部門

図画部門

第40回	第39回	第38回	第37回	第36回	第35回
<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 鈴木 佑佳(山形市) 佐藤虎太郎(真室川町) 吉田 ゆい(米沢市) ●<b>県中央会会長賞</b> 昌腹 里玖(新庄市) 伊藤 晴夏(三川町) 山口 雅乃(鶴岡市) ●<b>優秀賞</b> 安部くるみ(米沢市) 中川 峻(南陽市) 木内 春陽(東根市) 早坂 涼太(東根市) 川田 健太(新庄市) 笠原 莉玖(新庄市) 小下 健太(高島町) 田中 空来(寒河江市) 伊藤 弥桜(鶴岡市) 庄司潤一郎(真室川町) 加藤 朱音(米沢市) 新野 涼香(川西町) 橋本 未句(米沢市) 高野穂乃花(山形市) 伊藤 寧音(山形市) ●<b>学校奨励賞</b> 新庄市立萩野小学校 米沢市立第二中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 門脇 陽希(大蔵村) 後藤 芽衣(河北町) 森村 春輝(山形市) ●<b>県中央会会長賞</b> 軽部 翔真(寒河江市) 青木 実央(新庄市) 留守めぐみ(米沢市) ●<b>優秀賞</b> 後藤 天星(最上町) 早坂 颯真(東根市) 加藤 響(大蔵村) 後藤 有瑠(高島町) 伊藤 准輝(高島町) 小澤 爽太(白鷹町) 五十嵐広大(鶴岡市) 丸山 美優(鶴岡市) 打田ゆらら(白鷹町) 荒木 怜(最上町) 八巻 怜花(米沢市) 山口 雅乃(鶴岡市) 今野 佑香(米沢市) 渋江 初菜(山形市) 井上 砂城(鶴岡市) ●<b>学校奨励賞</b> 大蔵村立大蔵小学校 山形市立第三中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 佐々木美耀(米沢市) 高橋満里奈(新庄市) 小野寺涼太(鶴岡市) ●<b>県中央会会長賞</b> 阿部 聖音(酒田市) 佐藤 礼夢(鶴岡市) 安部 優香(米沢市) ●<b>優秀賞</b> 上林 奈央(鶴岡市) 津藤 奏(山形市) 小野幸治郎(大蔵村) 早坂 大翔(大蔵村) 安部 真桜(米沢市) 田村 健人(米沢市) 諏訪 琳音(鶴岡市) 大滝 星矢(鶴岡市) 佐藤 陽理(南陽市) 伊藤 日高(鶴岡市) 伊藤 優太(山形市) 鈴木 千絵(南陽市) 高橋真惟子(南陽市) 石原 花凜(飯豊町) 清和 怜真(鶴岡市) ●<b>学校奨励賞</b> 大蔵村立大蔵小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 伊藤 風牙(鶴岡市) 井上 瑞貴(山形市) 松寄 大吾(米沢市) ●<b>県中央会会長賞</b> 佐竹 巧(山形市) 笹本 悠奈(庄内町) 我妻隆太郎(米沢市) ●<b>優秀賞</b> 早坂 大翔(大蔵村) 朝倉 愛子(南陽市) 丸山 美優(鶴岡市) 渋谷 結(鶴岡市) 佐藤 光(鶴岡市) 池田 結(庄内町) 會田 空翔(山形市) 森 優奈(米沢市) 佐藤みのり(庄内町) 齋藤 結月(鶴岡市) 須貝 麗夢(米沢市) 小野寺拓海(鶴岡市) 高内 滯奈(山形市) 井上 れな(鶴岡市) 遠藤 美月(鶴岡市) ●<b>学校奨励賞</b> 鶴岡市立朝日小学校 米沢市立第四中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 五十嵐まりあ(山形市) 土門 匠(天童市) 早川 舞乃(山形市) ●<b>県中央会会長賞</b> 大滝 楓人(鶴岡市) 伊藤 琉圭(鶴岡市) 阿部 咲輝(鶴岡市) ●<b>優秀賞</b> 森 壮汰(村山市) 安達 涼乃(大石田町) 阿部 夢叶(最上町) 横山 陽音(米沢市) 大滝 星矢(鶴岡市) 細矢 愛結(村山市) 矢萩 優生(村山市) 曾根 匠人(米沢市) 佐藤 亜美(鶴岡市) 渡部さくら(鶴岡市) 太田 里美(米沢市) 渡部 羅夢(鶴岡市) 森谷 咲耶(東根市) 舟山 愛理(米沢市) 中村梨恵子(山形市) ●<b>学校奨励賞</b> 鶴岡市立朝日大泉小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 寺嵩亜寿美(大石田町) 工藤 暢晃(庄内町) 小野 茜(朝日町) ●<b>県中央会会長賞</b> 佐藤 流偉(鶴岡市) 菅原彩花里(鶴岡市) 菅井 滯(朝日町) ●<b>優秀賞</b> 後藤 美空(米沢市) 菅原 葉央(鶴岡市) 鈴木 駿佑(大石田町) 會田 空翔(山形市) 鈴木 花凜(米沢市) 伊藤南奈美(鶴岡市) 長沼龍之介(高島町) 齋藤 健(真室川町) 齋藤 元希(大石田町) 小林 一樹(寒河江市) 井上 玲(米沢市) 大橋 鉄郎(米沢市) 森野 涼子(米沢市) 江部ひふみ(米沢市) 香澤 佑樹(山形市) ●<b>学校奨励賞</b> 大石田町立大石田小学校 朝日町立朝日中学校</p>
<p><b>全国</b> ●<b>全国農業協同組合中央会会長賞</b> 後藤 天羽(最上町) ●<b>優秀賞</b> 吉田 ゆい(米沢市)</p>	<p><b>全国</b> ●<b>農林水産大臣賞</b> 松浦蒼一郎(庄内町) ●<b>優秀賞</b> 門脇 陽希(大蔵村) 後藤 芽衣(河北町) 森村 春輝(山形市) ●<b>学校奨励賞</b> 庄内町立余目第一小学校</p>	<p><b>全国</b> ●<b>優秀賞</b> 小野寺涼太(鶴岡市)</p>	<p><b>全国</b> ●<b>優秀賞</b> 伊藤 風牙(鶴岡市) 井上 瑞貴(米沢市) 松寄 大吾(米沢市)</p>	<p><b>全国</b> ●<b>文部科学大臣賞</b> 小林 千紗(高島町) ●<b>優秀賞</b> 五十嵐まりあ(山形市) ●<b>学校奨励賞</b> 高島町立第二中学校</p>	<p><b>全国</b> ●<b>文部科学大臣賞</b> 瀬川 隼矢(庄内町) ●<b>農林水産大臣賞</b> 石森 泉(鶴岡市) ●<b>学校奨励賞</b> 庄内町立余目第四小学校 鶴岡市立鶴岡第四中学校</p>
<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 熊谷飛悠吾(尾花沢市) 伊藤 拓磨(尾花沢市) 鎌田 龍也(山辺町) ●<b>県中央会会長賞</b> 金内 大和(鶴岡市) 伊藤 未希(尾花沢市) 工藤 千慧(山形市) ●<b>優秀賞</b> 石山 竜成(最上町) 松田 紗和(鶴岡市) 高橋 晴(最上町) 星 七菜子(新庄市) 笠原 未羽(最上町) 柴崎 大和(尾花沢市) 齋藤 詩歩(鶴岡市) 原田 麗(尾花沢市) 大江 誓羅(尾花沢市) 稲村 大和(大蔵村) 田中 未咲(山形市) 石澤 元乾(山辺町) 田辺 理紗(飯豊町) 中島 彩(山形市) 佐藤 龍心(鶴岡市) ●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立鶴子小学校 山形市立金井中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 三嶋 優(尾花沢市) 佐藤 ひより(山形市) ●<b>県中央会会長賞</b> 鈴木 佑奈(大石田町) 遠藤 陸冬(尾花沢市) ●<b>優秀賞</b> 星川 葵(尾花沢市) 原田 結奈(尾花沢市) 星川 椿(尾花沢市) 矢作 結苺(尾花沢市) 富樫 智花(山形市) 小野 慈和(尾花沢市) 今野 泰成(尾花沢市) 五十嵐雄汰(鶴岡市) 佐藤 夏都(鶴岡市) 菅藤 心菜(尾花沢市) ●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立福原小学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 阿部 大翔(尾花沢市) 二瓶 寛太(山形市) 平間 杏奈(山形市) ●<b>県中央会会長賞</b> 江刺さくら(尾花沢市) 早坂 美羽(尾花沢市) 本澤 育実(山形市) ●<b>優秀賞</b> 五十嵐羽琉(鶴岡市) 堀江 星琉(尾花沢市) 笹原 月吹(尾花沢市) 佐藤 愛心(村山市) 佐藤 なお(鶴岡市) 渡辺 成美(尾花沢市) 鈴木 来春(尾花沢市) 齋藤 亜子(尾花沢市) 菅藤 優成(尾花沢市) 佐藤 花玲(鶴岡市) 井上 楓(山形市) 山口 桃佳(山形市) 枝松 伶奈(山形市) 藤原 優衣(山形市) 齋藤 穂歌(山形市) ●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立第九中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 押切 零旺(尾花沢市) 渡辺 成美(尾花沢市) 高橋 綾香(山形市) ●<b>県中央会会長賞</b> 渡會 圭悟(尾花沢市) 日下 和也(高島町) 竹田夏奈子(山形市) ●<b>優秀賞</b> 三浦 匠悟(尾花沢市) 小林 由侑(尾花沢市) 伊藤 拓磨(尾花沢市) 西尾 真央(尾花沢市) 叶野 空和(鶴岡市) 長永 千佳(庄内町) 吉田京次郎(山形市) 阿部 唯斗(天童市) 砂田 千夢(鶴岡町) 東海林玲奈(尾花沢市) 平間 杏奈(山形市) 秋葉ひなの(山形市) 渡邊 美佑(山形市) 平吹 百恵(山形市) 鎌田美乃里(山形市) ●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立福原中部小学校 山形市立金井中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 斎藤 匠(東根市) 溝越 真輝(尾花沢市) 大滝 日菜(山形市) ●<b>県中央会会長賞</b> 星川 悠人(尾花沢市) 小幡 あみ(尾花沢市) 半田さつき(山形市) ●<b>優秀賞</b> 越前 快斗(尾花沢市) 尾崎 李果(尾花沢市) 笹原 優極(尾花沢市) 叶野 空和(鶴岡市) 宇田 竜健(庄内町) 東海林玲奈(尾花沢市) 本間 海成(尾花沢市) 小幡 圭佑(尾花沢市) 三浦 幸司(尾花沢市) 佐藤 俊貴(鶴岡市) 進藤 円(山形市) 梅木 泉美(山形市) 高橋 真優(山形市) 横沢 美玖(山形市) 齋藤 光(南陽市) ●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立福原中部小学校 山形市立第九中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 柴崎 真人(最上町) 森谷 康平(山形市) 原田 拓夢(山形市) ●<b>県中央会会長賞</b> 加賀 龍太(鶴岡市) 小幡 圭佑(尾花沢市) 荒井遊絵子(山形市) ●<b>優秀賞</b> 高橋 龍馬(大石田町) 鈴木 来春(尾花沢市) 笹原 実莉(尾花沢市) 五十嵐一樹(尾花沢市) 西塚 優太(尾花沢市) 星 竜成(米沢市) 佐藤 一貴(天童市) 五十嵐友寿(鶴岡市) 佐藤 俊貴(鶴岡市) 押野 尚道(鶴岡市) 大滝 日菜(山形市) 高橋 里沙(山形市) 吉田 心(山形市) 遠藤 千央(山形市) 鈴木 里奈(山形市) ●<b>学校奨励賞</b> 鶴岡市立朝陽第二小学校 山形市立金井中学校</p>
<p><b>全国</b> ●<b>優秀賞</b> 平間 杏奈(山形市)</p>	<p><b>全国</b> ●<b>農林水産大臣賞</b> 志田 葉月(山形市) ●<b>学校奨励賞</b> 山形市立第九中学校</p>	<p><b>全国</b> ●<b>優秀賞</b> 半田さつき(山形市)</p>	<p><b>全国</b> ●<b>農林水産大臣賞</b> 志田 葉月(山形市) ●<b>学校奨励賞</b> 山形市立第九中学校</p>	<p><b>全国</b> ●<b>優秀賞</b> 半田さつき(山形市)</p>	<p><b>全国</b> ●<b>農林水産大臣賞</b> 西田 知世(山形市) ●<b>学校奨励賞</b> 山形市立第九中学校</p>

第47回	第46回	第44回	第43回	第42回	第41回	作 文 部 門
<p><b>山形県</b> ●<b>山形県知事賞</b> 松田 彩未(庄内町) 熊谷 大輔(東根市) 藤村 愛依(米沢市) ●<b>県中央会会長賞</b> 梁瀬 聖希(大蔵村) 中嶋 尊帆(最上町) 小笠原晃穂(鶴岡市) ●<b>優秀賞</b> 佐藤 茉優(真室川町) 烏 円花(山形市) 矢作 莉夢(大蔵村) 桑原 鶴斗(鶴岡市) 千歳友太郎(山形市) 佐藤 優真(真室川町) 五十嵐蒼二郎(鶴岡市) 茂木 耀義(米沢市) 加藤 愛(南陽市) 鈴木昭太郎(高畠町) 鈴木寧々花(米沢市) 菊地 咲良(白鷹町) 加藤寿々風(米沢市) 竹田 春輝(高畠町) 手塚 遥斗(高畠町) ●<b>学校奨励賞</b> 米沢市立北部小学校 米沢市立第四中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 添川 夢叶(高畠町) 齋藤 優空(三川町) 有賀 咲星(鶴岡市) ●<b>県中央会会長賞</b> 佐藤 来彌(真室川町) 鈴木亜悠睦(鶴岡市) 林谷さくら(山形市) ●<b>優秀賞</b> 土屋 晴路(山形市) 松浦 李那(山形市) 佐藤 衣鞠(三川町) 佐藤 風(鶴岡市) 高橋 陽(真室川町) 中嶋 尊帆(最上町) 田村 理音(米沢市) 渡辺 琉生(最上町) 宮澤 桃子(米沢市) 我妻 尚哉(高畠町) 寒河江万葉(南陽市) 鈴木 崇仁(米沢市) 鈴木百々花(米沢市) 石川 和翔(米沢市) 菅原 紗希(白鷹町) ●<b>学校奨励賞</b> 高畠町立和田小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 相田 瑛舞(南陽市) 安部くるみ(米沢市) 丸谷 真嬉(鶴岡市) ●<b>県中央会会長賞</b> 田村 理音(米沢市) 宗形 柚希(山形市) 小林 柊也(川西町) ●<b>優秀賞</b> 横山 莉子(山辺町) 菅原 菜央(東根市) 矢口 美颯(最上町) 北澤 優志(米沢市) 森谷 茉南(鶴岡市) 後藤 怜皇(最上町) 安食 日涼(戸沢村) 我妻 尚哉(高畠町) 佐藤 舜太(米沢市) 早坂 菜摘(米沢市) 戸田 和幸(米沢市) 山崎 遙斗(米沢市) 保科 紅葉(川西市) 中目 量太(鶴岡市) ●<b>学校奨励賞</b> 米沢市立北部小学校 鶴岡市立鶴岡第三中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 柴田 星(山形市) 佐藤 椰(庄内町) 手塚 大地(米沢市) ●<b>県中央会会長賞</b> 杉浦 凜(米沢市) 原田 昊士(鶴岡市) 丸谷 亮太(鶴岡市) ●<b>優秀賞</b> 峯田 孝誠(米沢市) 齋藤 夢佳(村山市) 土田 覇瑠(村山市) 天野 悠都(村山市) 青木 舞桂(米沢市) 安部くるみ(米沢市) 加藤 花音(高畠町) 本間 智妃(三川町) 高橋龍之介(南陽市) 樋口 佳汰(白鷹町) 伊藤 葵(川西町) 齋藤由希哉(高畠町) 佐藤 弥桜(鶴岡市) 梅本 京香(鶴岡市) 疋田 夏海(鶴岡市) ●<b>学校奨励賞</b> 村山市立楢岡小学校 川西町立川西中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 安部くるみ(米沢市) 佐藤 舜太(米沢市) 鈴木 雄貴(米沢市) ●<b>県中央会会長賞</b> 佐藤 花音(三川町) 千田 悠悟(南陽市) 伊藤 芽琉(山形市) ●<b>優秀賞</b> 鈴木 萌音(山形市) 佐藤 純真(高畠町) 齋藤 逞真(最上町) 阿部 璃空(新庄市) 手塚 遥斗(高畠町) 手塚 大地(米沢市) 加藤 響(大蔵村) 井上 櫻子(高畠町) 星 七菜子(新庄市) 阿部 真宙(最上町) 平清水なおり(山形市) 高橋 陸斗(山形市) 大橋 彩未(米沢市) 佐藤慶太郎(川西町) 鈴木 広美(米沢市) ●<b>学校奨励賞</b> 米沢市立塩井小学校 米沢市立第二中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 野川 裕太(米沢市) 高橋 悠太(天童市) 佐藤 百華(米沢市) ●<b>県中央会会長賞</b> 木内 春陽(東根市) 伊藤 柚葵(天童市) 松本 季子(米沢市) ●<b>優秀賞</b> 鈴木 あこ(庄内町) 安部くるみ(米沢市) 加藤 翼沙(高畠町) 柴崎 皓大(最上町) 堀川 遙(天童市) 大場新之助(最上町) 伊藤 楓華(天童市) 大類 渚(天童市) 佐藤 里菜(米沢市) 小野 海咲(最上町) 高橋 夢月(米沢市) 山木 穂(米沢市) 竹田 勇貴(米沢市) 鈴木 里桜(米沢市) 舟山 楓夏(山形市) ●<b>学校奨励賞</b> 天童市立津山小学校 米沢市立第二中学校</p>	
<p><b>全国</b> ●<b>農林水産大臣賞</b> 田村 理音(米沢市) ●<b>優秀賞</b> 松田 彩未(庄内町) 藤村 愛依(米沢市) ●<b>学校奨励賞</b> 米沢市立北部小学校</p>	<p><b>全国</b> ●<b>文部科学大臣賞</b> 茂木 耀義(米沢市) ●<b>優秀賞</b> 齋藤 優空(三川町) 有賀 咲星(鶴岡市) ●<b>学校奨励賞</b> 米沢市立南原小学校</p>	<p><b>全国</b> ●<b>文部科学大臣賞</b> 青木 舞桂(米沢市) ●<b>農林水産大臣賞</b> 園部 杏莉(庄内町) ●<b>優秀賞</b> 丸谷 真嬉(鶴岡市) ●<b>学校奨励賞</b> 米沢市立北部小学校 庄内町立余目第三小学校</p>	<p><b>全国</b> ●<b>優秀賞</b> 佐藤 椰(庄内町)</p>	<p><b>全国</b> ●<b>全国農業協同組合中央会会長賞</b> 早坂 佑羽(大蔵村) ●<b>優秀賞</b> 佐藤 舜太(米沢市)</p>	<p><b>全国</b> ●<b>優秀賞</b> 野川 裕太(米沢市) 高橋 悠太(天童市) 佐藤 百華(米沢市)</p>	
<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 押野 咲紀(山形市) 山澤 幸生(山形市) 川合 海音(山形市) ●<b>県中央会会長賞</b> 瀧澤 永吉(高畠町) 添川 夢叶(高畠町) 浅野 来米(米沢市) ●<b>優秀賞</b> 栗田 泰成(真室川町) 鈴木 楓麻(南陽市) 早坂 優希(大石田町) 加藤 凜空(村山市) 矢作 蒼梧(大石田町) 伊藤 学玖(大蔵村) 松田 蒼士(白鷹町) 柴田 鉄汰(尾花沢市) 遠藤 嘉乃(尾花沢市) 加藤 璃子(舟形町) 木村 佳恵(山形市) 横山 瑠香(米沢市) 猪口 陽向(米沢市) 佐藤 七渚(鶴岡市) 安野 雅彩(鶴岡市) ●<b>学校奨励賞</b> 山形大学附属小学校 米沢市立第二中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 殿岡 直橙(南陽市) 巖田 鉄汰(尾花沢市) 井田 大成(山形市) ●<b>県中央会会長賞</b> 高梨 倅芽(川西町) 笹生 大河(山形市) 川合 海音(山形市) ●<b>優秀賞</b> 庄司 圭吾(尾花沢市) 畠腹 啓翔(新庄市) 五十嵐友築(尾花沢市) 松田 彩那(庄内町) 齋藤 一花(山形市) 荒木 怜人(村山市) 落合 絢音(尾花沢市) 佐藤 珠々(山形市) 阿部 桜貴(高畠町) 木村 佳恵(山形市) 後藤 大駕(米沢市) 漆山 陽向(山形市) 鈴木 大虎(飯豊町) 佐藤 暖(天童市) 伊藤 美緒(鶴岡市) ●<b>学校奨励賞</b> 山形大学附属小学校 山形市立第五中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 秋保 一路(尾花沢市) 木村 佳恵(山形市) 古内 慧士(山辺町) ●<b>県中央会会長賞</b> 工藤 壮真(新庄市) 星川 煌(尾花沢市) 朝倉 春花(山形市) ●<b>優秀賞</b> 関 心和(白鷹町) 大場 雄翔(最上町) 石山 蒼(最上町) 鈴木 瑠桜(米沢市) 佐藤 花音(三川町) 西尾アシュリン(尾花沢市) 尾崎ありさ(尾花沢市) 尾崎 翠恵(尾花沢市) 狩野 祐輔(高畠町) 岩浪 廉(鶴岡市) 原田 陽菜(山形市) 鈴木妃依里(山形市) 川口 憧(山辺町) 宗田 萌(山辺町) 齋藤 美維(鶴岡市) ●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立尾花沢小学校 山辺町立山辺中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 遠藤 嘉乃(尾花沢市) 遠藤 真心(尾花沢市) 富樫 優有(山形市) ●<b>県中央会会長賞</b> 佐藤 瑛太(尾花沢市) 石山 万莉(尾花沢市) 加藤百合亜(新庄市) ●<b>優秀賞</b> 安彦咲汰朗(南陽市) 二戸 心菜(最上町) 後藤 莉渚(尾花沢市) 西塚 悠生(尾花沢市) 原田 僚(尾花沢市) 永沢 真彩(尾花沢市) 齋藤 真輝(鶴岡市) 村上 茉生(三川町) 佐藤 結望(三川町) 高橋 伊吹(尾花沢市) 原田 陽菜(山形市) 木元素玖凜(鶴岡市) 薬科ひなた(米沢市) 松田 桃香(鶴岡市) 箱山 妃南(新庄市) ●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立玉野小学校 山形市立金井中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 和田 紗采(山形市) 秋保 大地(尾花沢市) 富樫 優有(山形市) ●<b>県中央会会長賞</b> 加藤 朱葵(南陽市) 元木 煌瑛(東根市) 石倉 紀華(山辺町) ●<b>優秀賞</b> 小野健太郎(山形市) 佐藤この実(鶴岡市) 佐藤 明咲(最上町) 手塚 遥斗(高畠町) 浦山 結羽(米沢市) 富樫 太一(尾花沢市) 二瓶 耕太(山形市) 三坂 琉音(尾花沢市) 志村直太郎(尾花沢市) 澤 悦菜(高畠町) 渡邊 和哉(山形市) 齋藤 桃々(山形市) 松田 桃香(鶴岡市) 鈴木 里桜(米沢市) 箱山 妃南(新庄市) ●<b>学校奨励賞</b> 山形大学附属小学校 山形市立金井中学校</p>	<p><b>山形県</b> ●<b>県知事賞</b> 鈴木 大智(高畠町) 後藤 早希(東根市) 佐藤 龍心(鶴岡市) ●<b>県中央会会長賞</b> 安野 世那(尾花沢市) 渡部 蓮(鶴岡市) 村山 亜弥(山辺町) ●<b>優秀賞</b> 加賀山 蒼(鶴岡市) 三坂明日樂(尾花沢市) 山川 翔太(山形市) 石山 裕士(尾花沢市) 伊藤 愛陽(尾花沢市) 高橋 悠太(天童市) 菅野 柚杏(尾花沢市) 齋藤 美維(鶴岡市) 佐藤 陽菜(尾花沢市) 阿部 心暖(河北町) 齋藤 香奈(山形市) 齋藤 遥奈(山形市) 石川 咲咲(山形市) ●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立金井中学校</p>	
<p><b>全国</b> ●<b>優秀賞</b> 押野 咲紀(山形市) 川合 海音(山形市)</p>	<p><b>全国</b> ●<b>優秀賞</b> 殿岡 直橙(南陽市) 井田 大成(山形市)</p>	<p><b>全国</b></p>	<p><b>全国</b> ●<b>優秀賞</b> 遠藤 嘉乃(尾花沢市) 遠藤 真心(尾花沢市)</p>	<p><b>全国</b> ●<b>文部科学大臣賞</b> 井上 花帆(尾花沢市) ●<b>優秀賞</b> 富樫 優有(山形市) ●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立尾花沢小学校</p>	<p><b>全国</b> ●<b>優秀賞</b> 鈴木 大智(高畠町)</p>	

※第45回はコロナ禍のため中止

## 第47回

# 「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール審査経過の概要

### ■応募数

作文：244点  
 図画：823点                      合計 1,067点

区分	1部	2部	3部	計
作文部門	57点	112点	75点	244点
図画部門	479点	302点	42点	823点

### ■審査

#### (1) 県予選審査期日

作文部門 令和4年10月20日(木)  
 図画部門 令和4年10月13日(木)

#### (2) 全国コンクール審査期日

作文部門 令和4年11月15日(火)  
 図画部門 令和4年11月18日(金)

#### (3) 県コンクール審査期日

作文部門 令和5年1月12日(木)  
 図画部門 令和5年1月13日(金)

### ■審査委員

#### 【県コンクール】

##### 作文部門(5名)

審査委員長 樋口 潤一 (山形市立第十小学校 校長)  
 笹原美百紀 (天童市立第四中学校 校長)  
 井上麻美子 (山形大学附属小学校 教諭)  
 海谷奈美紀 (山辺市立山辺小学校 教諭)  
 二藤部由美 (中山町立中山中学校 教諭)

##### 図画部門(3名)

審査委員長 建部 敦 (大江町立左沢小学校 校長)  
 笹原 聡 (村山市立楯岡中学校 校長)  
 芦野 繁樹 (山形市立附属小学校 教諭)

### ■審査結果

#### (1) 県コンクール

- ・山形県知事賞 作文部門3名/図画部門3名
- ・山形県農業協同組合中央会会長賞 作文部門3名/図画部門3名
- ・優秀賞 作文部門15名/図画部門15名
- ・学校奨励賞 作文部門2校/図画部門2校

#### (2) 全国コンクール (県内入賞者(校)数)

- ・農林水産大臣賞 作文部門1名
- ・優秀賞 作文部門2名/図画部門2名
- ・学校奨励賞 1校

年度	部門	1部	2部	3部	合計
平成16 (第29回)	作文 図画	50 449	157 468	129 29	336 946
17 (第30回)	作文 図画	67 523	87 496	156 37	310 1,056
18 (第31回)	作文 図画	33 429	217 499	227 29	477 957
19 (第32回)	作文 図画	44 488	117 418	225 27	386 933
20 (第33回)	作文 図画	58 550	84 412	231 27	373 989
21 (第34回)	作文 図画	77 521	95 376	235 26	407 923
22 (第35回)	作文 図画	68 531	151 308	196 67	415 906
23 (第36回)	作文 図画	56 531	66 290	266 32	388 853
24 (第37回)	作文 図画	51 424	61 309	211 36	323 769
25 (第38回)	作文 図画	56 450	83 372	150 19	289 841
26 (第39回)	作文 図画	95 353	134 382	150 19	379 754
27 (第40回)	作文 図画	122 353	167 370	178 45	467 768
28 (第41回)	作文 図画	124 464	165 361	121 64	410 889
29 (第42回)	作文 図画	133 500	161 344	86 48	380 892
30 (第43回)	作文 図画	86 462	136 349	94 48	316 859
31 (第44回)	作文 図画	122 531	147 400	123 39	392 970
令和2 (第45回)	コロナ禍のため中止				
3 (第46回)	作文 図画	59 382	107 241	78 34	244 657
4 (第47回)	作文 図画	57 479	112 302	75 42	244 823

## 1. 趣 旨

本コンクールは、JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農・地域を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた水田農業全般についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することを通じて、お米・ごはん食・日本食の重要性を広く周知することを目的として実施する。

## 2. 課 題（作文・図画両部門共通）

毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食に関しての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現して下さい。

## 3. 応募資格

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。  
特別支援学校の小学部、中学部に在籍する児童・生徒。

## 4. 応募規格（枚数・大きさ）

## 【作文部門】

- 1部 小学校1年生～3年生（400字詰め原稿用紙2枚以内、またはマス目の大きい原稿用紙で800字以内）  
2部 小学校4年生～6年生（400字詰め原稿用紙3枚以内）  
3部 中学校1年生～3年生（400字詰め原稿用紙4枚以内）  
① 作文用紙1枚目の1行目に作品の題名、2行目に学校名、学年、氏名、3行目から本文を書き出してください（学校名、学年、氏名が3行になる場合は4行目から本文を書き出してください）。  
② 本人による直筆を原則とし、パソコンなどにより作成した原稿は応募不可とします。  
ただし、視覚・手に障害のある児童・生徒については、その旨を特記事項として応募票の欄外に記述した場合のみ、パソコンなどで作成した原稿の応募を認めます。

## 【図画部門】

- 1部 小学校1年生～3年生  
2部 小学校4年生～6年生  
3部 中学校1年生～3年生  
B3判（364×515ミリ）、もしくは四つ切り（380×540ミリ）の市販画用紙を使用。画材は特に制限しません。

## 5. 応募規則

- 作文・図画とも課題にそった作品を対象とします。
- 応募は本人の未発表でオリジナルの作品に限ります。また、他のコンテストに応募していない作品に限ります。他人の写真や作品を模写・模倣したものは応募できません。著作権、商標権、肖像権など、他者の権利を侵害する作品は応募できません。
- ひとりで1部門に2点以上の応募はできません。2点以上応募の場合は、2点とも審査対象外となる場合があります。
- 合作は応募できません。
- 図画作品でスローガンや文字を入れたポスター的なものや台紙に貼ったものは応募できません。
- 学校で応募の際は、別添の応募者一覧表（作文部門7ページ、図画部門8ページ）を切り取りもしくはコピーしたうえで記入し、必ず添付してください。コピーする場合は、必ずA4サイズでコピーしてください。
- 作品には、1点ごとに次の事項を記入した別添応募票（6ページ）をつけてください。つける位置は最後のページの裏面、図画は裏面中央とします。①作品の題名②氏名③学校名・学年・組④学校の所在地（郵便番号・電話番号）⑤JA（農業協同組合）名
- 全応募作品を、表彰式終了後の2月下旬ごろ、各JAから応募校を通じて応募者に返却いたします。また、全国コンクールの大臣賞および全国農業協同組合中央会長賞受賞作品ならびに山形県コンクールの山形県知事賞および山形県農業協同組合中央会長賞受賞作品は、レプリカを作成し、大臣賞受賞作品は永年、山形県知事賞・山形県農業協同組合中央会長賞は1年間、協同の杜に展示します。なお、作品の著作権は全国農業協同組合中央会および山形県農業協同組合中央会に帰属します。
- 作品を応募することによって、応募作品をJAグループの広報活動および諸事業活動のために利用することに予め承諾したものとします。その際、作文の部分的な抜き出しや、図画のサイズの変更・トリミングなど一部改変させていただく場合があります。印刷等の都合上、実際の作品と色が多少異なる場合がございます。
- 記入いただいた個人情報、入賞通知・発表や表彰式などのほか、県名、学校名、学年、氏名等の一部情報についてはプレスリリース等のメディアへの発表、JAグループの広報媒体（入賞作品集やホームページ等）への露出や作品展示などの広報活動および諸事業活動で公表・使用することがあります。上記および、法令等により開示を求められた場合を除き、承諾なくコンクール関係者以外の第三者に個人情報を提供することはありません。
- 作品を応募することによって、上記の個人情報の使用に承諾したものとします。
- 入賞通知後でも、当該入賞作品がすでに発表済みやオリジナルでない作品と判明した場合、応募規則への違反や、虚偽の報告が判明した場合は受賞を取り消します。

## 6. 締切日

令和4年9月30日（金）※必着

## 7. 全国段階との関連

- 県段階で予選審査を行い、各部門各部門ごとに点数を全国コンクールに推薦します。
- 全国コンクール入賞作品（優秀賞除く）以外の作品を対象に、山形県コンクール審査を行い、県段階の入賞作品を決定します。

## 8. 審査員

## 【全国コンクール】

- ◎作文部門審査会委員長  
中村 靖彦氏（東京農業大学客員教授）  
◎作文部門  
設楽 敬一氏（（公社）全国学校図書館協議会理事長）  
竹村 和子氏（（公社）全国学校図書館協議会常務理事・事務局長）  
堀米 薫氏（児童文学作家、（一社）日本児童文芸家協会理事）  
真鍋 和子氏（児童文学作家、（一社）日本児童文学協会評議員）  
◎図画部門審査会委員長  
尾木 直樹氏（教育評論家、法政大学名誉教授、臨床教育研究所「虹」所長）  
◎図画部門  
岡田 円治氏（元株式会社NHKアート代表取締役社長、日本美術家連盟準会員）  
岡村 泰成氏（美術家集団「Moss Spirits」代表、日本美術家連盟会員）  
小柳津須看枝氏（日本美術家連盟会員）  
西巻 茅子氏（絵本作家）  
東良 雅人氏（元文部科学省初等中等教育局視学官、京都市教育委員会総合教育センター副所長）

## 【山形県コンクール】

県教育庁および小・中学校教員（作文部門5名、図画部門3名）

## 9. 審査基準

別添審査基準（作文部門4ページ、図画部門5ページ）による。

## 10. 賞

## 【全国コンクール】

- |                    |   |
|--------------------|---|
| (1) 内閣総理大臣賞        | 作文・図画部門各1名——計2名<br>賞状と副賞（記念盾及びお米券、記念品）    |
| (2) 文部科学大臣賞        | 各部門各部門ごとに1名——計6名<br>賞状と副賞（お米券および記念品）      |
| (3) 農林水産大臣賞        | 各部門各部門ごとに1名——計6名<br>賞状と副賞（お米券および記念品）      |
| (4) 全国農業協同組合中央会会長賞 | 各部門各部門ごとに1名——計6名<br>賞状と副賞（お米券及び記念品）       |
| (5) 優秀賞            | 各部門各部門ごとに15名——計90名<br>賞状と副賞（記念品）          |
| (6) 学校奨励賞          | 内閣総理大臣・文部科学大臣・農林水産大臣<br>各賞受賞者所属校——計14校 賞状 |

## 【山形県コンクール】

- |                     |                              |
|---------------------|------------------------------|
| (1) 山形県知事賞          | 各部門各部門ごとに1名——計6名 賞状と副賞       |
| (2) 山形県農業協同組合中央会会長賞 | 各部門各部門ごとに1名——計6名 賞状と副賞       |
| (3) 優秀賞             | 各部門各部門ごとに5名——計30名 賞状と副賞      |
| (4) 学校奨励賞           | 各部門小学校1校中学校1校<br>——計4校 賞状と副賞 |

## 11. 入賞発表・表彰式（作文・図画部門共通）

## 【全国コンクール】

- 入賞発表 令和4年12月上旬
- 表彰式 令和5年1月7日（土）（入賞校、入賞者宛通知します。）

## 【山形県コンクール】

- 入賞発表 令和5年1月下旬（予定）
- 表彰式 令和5年2月中旬（予定）（入賞校、入賞者宛通知します。）  
（県表彰式は、情勢に応じ、オンラインでの開催または中止の場合もあります。）

## 12. 主 催

農業協同組合／都道府県農業協同組合中央会／全国農業協同組合中央会

## 13. 受付窓口および問合せ先

- 県内の各JAを受付窓口とします。
- 県段階は次にお問い合わせください。

〒990-0042 山形市七日町三丁目1番16号  
山形県農業協同組合中央会（JA山形中央会）  
総務部「作文・図画コンクール」係（担当：長峯・八城）  
TEL：023-634-8111 FAX：023-633-1754

作文2部  
農林水産大臣賞

「ごはん一つぶの重み」

米沢市立北部小学校5年

たむらりいな  
田村 理音 さん

ごはん一つぶの重み  
米沢市立北部小学校5年 田村 理音  
「また、ごはん一つぶ残してる。」  
私がおはんを食べ終わって、ごはん茶碗を運  
ぼうとすると、よく父に言われます。  
「残してないよ。」  
「ここにありません。」  
「そう言われて仕方なく私は食べます。確かに  
一つぶが二つぶ残っているのです。私は全部  
食べているつもりなのに、なぜがお茶碗の  
見えないところについているのです。残して  
いないのになぜいつも注意されるんだろう。  
私の中で疑問が残ります。」  
私は今年5年生なので、自然の家で宿泊体  
験学習がありました。ずすと楽しみにしてい  
たのが、友達と泊まることと野外すいはんで  
カレーとごはんを作ることでした。でも、新  
型コロナウイルスが感染拡大したために、お  
米は自分でたけなくなり、カレーはレトル  
トカレーをお湯で温めるだけになっ、てしまい

ました。学校の家庭科の授業でも調理できず  
みんな調理する機会がなかった。たのでどうし  
てもやってみたかったのです。だからできな  
くなつて残念でした。あまりにがっかりして  
いたので、父が家でお米をたけないかと調べ  
てくれました。空き缶を使つてたく方法で、  
かまども空き缶で作つてくれました。まず、  
お米をときました。初めてだったので、父に  
教えてもらいながらときました。ボールに入  
れたお米を外一つぶも落とさないように横  
重にときました。それはのこ落としてしま  
いました。大切なお米なのに、たいたいと思  
おこします。空き缶にお米を入れてかまどに  
のせます。火が点いてからがすごく大変で  
した。燃料になる牛乳パックを次々と入れて、  
うちわで火を大きくしていきます。暑い中、  
休むひまもないのです。途中で火が消えてし  
ま、て何回もやり直しました。上のせたア  
ルミホイールがふくらむとごはんがたまあが

た合図です。まだかまだかこわくわくして待  
っていました。汗だくたくで食べたごはんは  
何も具が入つていなくて、味も付いていな  
のに、すごくすくおいしかったです。ごは  
んって、本当はほんのりあまいんだと分か  
りました。一つぶも残さず食べられました。  
「今日は、きれいに食べられたね。」  
「今日、ふと思ひ出しました。ごはん  
は二十五つぶで一グラムだということも。米  
沢市の食べ残しを減らす取り組みのために調  
べました。ごはん一つぶでは軽いけれど、本  
当は重い一つぶです。私達と同じように、農  
家の方が種もれから育ててくれた大事な命で  
す。私が時々残している一つぶも本当は重  
い。大切な一つぶだ。たと、自分でたいたごは  
んを食べて気づきました。私は食べたつもり  
になつていたけれど、よく見ていなが、たので  
す。だから、残してしま、ていたのです。こ  
れからは、お米の大切な命を無駄にしないよ  
うに、一つぶも残さず食べたたいです。」

